

おもな記述の工夫点



①心理学に関するページを充実（p. 10～20）

新学習指導要領で新たに取り上げられた「心理学」について、ページを割いて丁寧に記述しています。学習指導要領のキーワードである「認知」「感情」「個性」「発達」に沿って項目を立てるとともに、図やイラストを豊富に掲載して、わかりやすく、生徒の興味をひく内容としています。この心理学に関する問題が2022年11月に公表された共通テストの試作問題で出題されており、共通テスト対策としても重要です。

②古代ギリシャの思想の記述を刷新（p. 28～41）

古代哲学の第一人者である納富信留先生（東京大学教授）を編集委員に招き、古代ギリシャの思想の記述を全面的に刷新しました。たとえば、ソクラテスの「無知の知」を「不知の自覚」に変更したり（p. 32）、ソクラテス以前の哲学についての記述を充実させたりしています（p. 29～31）。

③宗教やイスラームに関する記述を充実（p. 43～44, 55～57）

キリスト教などの諸宗教について学習する前段に、「宗教とはなにか」ということについて説明する項目を新設しました（p. 43～44）。また、イスラームに関する記述を充実させ、より確かな理解を育めるよう配慮しました（p. 55～57）。

④カントの認識論に関する記述を充実（p. 100～101）

義務論など倫理的側面が強調されがちなカントについて、そのベースとなっている批判哲学や認識論に関する記述を充実させました（p. 100～101）。

⑤「現代思想」の記述を整理・拡充（p. 116～137）

いわゆる「現代思想」の考え方（プラトン以降の哲学体系・西洋的価値観の転倒）を反映して、記述を充実させるとともに、構成を改善しています。具体的には次の点があげられます。

- ・従来は教科書冒頭の青年期の項目に位置づけていたフロイトを現代思想の部分に移動して、ニーチェなどとも現代思想の根源の一つとして位置づけました（p. 116～120）。
- ・ハイデッガーの「存在論」を強調するとともに、現象学のコラムを新設してフッサールとの関連性を示しました。（p. 121～123）。
- ・ソシュールやフーコーの記述を充実させ、構造主義以降の流れをつかみやすくするとともに、ラカンやアルチュセル、ロラン・バルト、リオタール、ボードリヤールについても触れました（p. 125～130）。
- ・リバタリアニズムやコミュニタリアニズムの記述を充実させ、ノージックやマッキンタイア、サンデルを新たに取り上げました（p. 137）。